

俳句

大津俳句会

母と娘のへのへのもへじ福笑い

相原 朋子

初日の出静かに祈る能登半島

一上日登美

土竜打子等が叩いて回る家

大塚喜久子

まだ温き鶏卵提げて寒見舞

岡崎 浩子

弾初めは味わひ深きソナタから

佐賀 久子

晴れ渡る九重連山初景色

佐澤 俊子

水道管寒さと耐へよとタオル巻き

中嶋 清美

俳句

つのはな句会

いのちつないで八十八の梅一輪

田上 公代

初風や解いた包帯泳がせて

上杉 波

蒲団干す難民の子ら思いつつ

矢嶋 道子

春の陽を浴びて小川の水光る

梅木トキエ

疼痛を自制して待つ冬診療

塚本 洋子

疼くたび思考とぎれる仏の座

柴田しのぶ

掃き清め焚き火囲みて継ぐ神事

村田 健二

春の明星 小国の空に医学史に

志賀 孝子

短歌

大津短歌会・野づかさ

夕空に薄紫の峰映えて鞍岳もすでに冬に入りけり

豊岡ミツル

被爆者を支え続けし人々よ雲間に光る月を仰ぎぬ

小平 善行

天草は崎津の浜に見つけたる桜貝とや手のひらに乗す

吉永 恵子

寒強きこの頃紫さらに濃き野紺菊はも今朝もさきつぐ

坂本 果子

冬枯れの山あい建つ不動堂いちよう古木のかたわらにして

鞍 岳志

三食の菜にあれこれ言うことをピタリと止めし吾病みしより

山本 泰子

お隣の庭木の剪定見習いて剪定すます今日我が家の

高村 貴子

ふく風に首をすばめて家に入る冬の気配のすでにせまりつ

吉田 良子

札幌の雪舞う様を録画して送りくれたりこの声そえて

本田 咲

阿蘇やまは輪地切りのとき野焼おわらば春はもうすぐ

田中 玲子